

谷川 登川丸ノ沢本谷

笹川

【日時】 2010年8月1日（日）

【メンバー】 L小暮、笹川

ゲートを過ぎても国道291号線「清水街道」の大変良い道が続く。この先で大堰堤工事が行われているからだ。

林道から十五里尾根に入り沢を横切るところで入渓。過去の記録では濡れながら登ったとか、ガイドには「難しい。…やはり難しい。」とあるのだが、今回は「難しいのかな？あれ易しい。ここも易しいぞ。」といった感じでずっと水線通して過ぎてしまった。ガイドとあまりにも難易度が違うので沢を間違えたかと思ったが、下山後に確認しても間違いなかった。水量の差でこんなにも難易度が違うのかと思いついた。

源頭に出るとだいぶガスってきて、すぐに分かると思っていた登山道も見当たらなかったが、木々が密集している沢型を詰めると七ツ小屋山手前の登山道に出た。

下山の十五里尾根は仮払いされたばかりでとても快適だったのだが、先に行く小暮が突然「えっ」と低い声をあげたので、蛇でもいたのかと聞くと「熊」が道の真ん中にいると言う。ちょうどカーブにさしかかったところで、10M程後ろにいた私のところからは藪に隠れて全く様子が伺えない。小暮に状況を説明してもらおうと15M位先の登山道の真ん中で熊が何か食べているとの事。逃げて行ってくれることを待っていたが、動く気配がないので仕方なく小暮が笛を吹いた。すると小暮が「こっちに来る」と言うので、私は逃げようと走り出すのが小暮がそのままの状態なので、訳が分からなくなる。「逃げないの？」と声を掛けると同時に至近距離に耐えかねた様子で小暮も登山道に戻ってきた。これはヤバイと二人とも本気で逃げ出した。50M程走ったところで振り返ったが熊の姿がないので立ち止まる。

熊に追いかけているのに、小暮の冷静な態度と自分との温度差に戸惑い、余計にパニックになる。どうしようかと相談し始めると15M先に黒い影が見えた。体は見えないが扇風機より一回り大きい黒い丸に耳がついている。ストーカーのように一瞬後ずさりしたように見えたが、またのっそりそこらに向かってきた。仕方がないのでまた走り出す。最初に小暮が笛を吹いてからずっとピーピー吹いていたが、どうしてもついてく



る。私も笛を出して吹いてみたが何も変わらない。今まで笛を吹けば熊は逃げると思っていたが、迷信だったのか。しかし笛の他に熊から逃げる手段が頭に浮かばない。

30M位走っては曲がり角に熊の姿を確認してまた走るを繰り返す。6~7回繰り返したところで送電線巡視路との分岐に出た。小暮はもう戻っても大丈夫だろうと言うが、絶対に戻りたくないと言われ、避難小屋まで行くことにした。ここからは笛を吹くことは諦めた。

避難小屋手前の送電線監視所で小暮がまた戻ろうと言うが、監視所脇に熊の糞を見つけたので早く小屋の中に入りたかった。そこから小屋は数分で小屋に入りやっと生きた心地を取り戻した。相談の結果、30分余計にかかるが井坪坂から下ることにした。小屋を出てからも登山道の曲がり角の先にある岩や倒木など黒い塊を見つけると熊に見えて仕方なかった。それに熊除けにラジオをかけていたら「熊手」の話をしていて「熊」という言葉が出るたびに肝を冷やされて余計に疲れてしまった。

今回は最初に熊を見つけたときに後退しながらこちらの気配を気付かせないようにするのが正解だったのかもしれない。笛を吹いたのは大失態でした。

【グレード】2級下

【行程】

8/1 ゲート(7:25)~十五里尾根分岐
(8:15)~上部二俣(10:30)~登山道(12:35)~白崩避難小屋
(14:35/14:50)~林道(16:45)~ゲート(18:00)

【地図】茂倉岳

